

守られている、わたしたちの水

社会 第4学年

野々市町立御園小学校・教諭

1 事例の概要

インターネットの普及やライフスタイルの多様化など、子ども達を取り巻く社会はめまぐるしく変化している。その中において時代に流されず、しっかりと自己を確立し、次の時代を担う形成者としての基礎を養うことが教育に求められているだろう。このような社会であるからこそ、特に社会科においては積極的に社会事象に働きかけ、問題解決していく力が大切であると考えている。

子ども達が主体的に学習を進めていくためには、強い追究意欲が不可欠である。学習問題を自分とのかかわりの中で捉え、そして、どのように調べたらよいかを考え、調べたことから社会的なものの見方や考え方を広げたり深めたりすることが大切である。更に、よりよい社会を目指して自分の生活を振り返り、実践する意欲を持つ。このような社会科の授業を目指して、研究をしていきたいと考えている。

本校の児童は、指示されたことについては一生懸命にがんばることができるのだが、自分から行動を起こしたり、より良いものを求めて考えようとしたりすることについては弱い面を持っている。

このような実態を踏まえ、子ども達の学ぶ意欲を高めながら、社会的な見方や考え方を育成し確かな学力につなげていきたいと考えている。

本事例は、体験活動の効果的なあり方を考え、飲料水の安定確保に関わる人々の努力や工夫に迫ろうとした実践である。

A-1 社会科で目指す子ども像

2 実践内容

(1) 単元の目標

- ・生活で使われている水に関心を持ち、見学調査活動を通して飲料水の確保に関わる対策や事業について意欲的に調べ、自分ができる協力や工夫をしようとする。(関心・意欲・態度)
- ・飲料水の確保が組織的・計画的に進められていることによって、地域の人々の健康な生活の維持と向上が図られていることを考えることができる。(思考・判断)
- ・飲料水が届くまでの様子を調査したり見学したりして分かったことを、絵、文章、グラフなどに分かり易く表すことができる。(技能・表現)
- ・飲料水の確保は生活に不可欠であることや安全な水を確保するための工夫や努力が分かる。(知識・理解)

(2) 指導上の工夫

- ① 児童の主体的な学習を促す学習指導の工夫
 - ・体験的な活動を基にし、実感や必要感を伴った問題意識の醸成
 - ・インタビューやゲストティーチャーなど、人との関わりを通じた学習
- ② 社会的なものの見方や考え方を育成する教材の開発
 - ・水の安定供給のために努力している人々の働きに迫り、自分の生活の仕方を見直せる教材
- ③ 評価の工夫改善
 - ・毎時間ごとの評価規準や評価方法の設定、1時間の途中での評価や支援の明確化
 - ・キーワードを意識した振り返りとその生かし方

B-1 評価計画

B-2 指導案

3 指導の実際

第二次

〈たくさんの水はどこから送られてくるのだろう〉

水の送られてくる経路を予想

雨→手取川→鶴来浄水場→野々市町の浄水場→家や学校
↑
水源地（井戸）

・井戸を掘ったり、県の水を受けたりして必要な水を間に合わせているんだね。

〈川の水をどのようにして飲める水にしているのだろう〉

鶴来浄水場見学

汚れを取り除く工夫

水質にあわせて消毒

水質の検査

・安心して水がのめるように、浄水場の人たちは多くの努力や工夫をしているよ。

★新しい事実の提示



- ・地震による水道管への被害
- ・能登島への給水量の低下
- ・能登島ー羽咋の間40kmのどこかで壊れている

・大変だ、水道管が壊れたよ。
・能登島へ水が送れなくなる。

・能登島の人々がちゃんとしたくらしができなくなる。

〈水道管を直すのにどれだけかかったのだろう〉

6時間 1日 2日 3日 どれかな

★ゲストティーチャー（浄水場の方）のお話

- ・能登島と羽咋の両方から調査を始めた。
- ・作業は夜通し行われた。
- ・水道管が直った後、何度も水を流しながら水道管の中をきれいに洗った。
- ・最後に水の検査をして異常がないか確かめた。
- ・翌朝の8時ごろにもと通りになった。

・どこで壊れたのか見つけるのも大変そうだ。
・直すまでには時間がかかるだろうな。

- ・1日でもと通りになるなんてとても早い。
- ・夜中も作業するなんてすごい努力だな。

・早く作業が進むように工夫している。
・そのおかげで、能登島の水は止まらなかったんだ。

4 成果と課題

C-1 研究の実際

(1) 成果

「体験活動」や「見学」、「ゲストティーチャーとの交流」など具体的な活動を単元に位置づけることで、主体的に学習に取り組む姿が見られ、実感を伴った理解をすることができた。また、子ども達が自分と社会的事象との結びつきに気づいたとき、そこに疑問がもてるような「新たな事実認識」を加えることで、追究の意欲を持続させることができた。

1時間の評価規準を明確にすると共に、授業の途中段階における評価や支援についてポイントを予め明らかにしておくことで、見取りがしやすく効果的な支援ができるようになった。

(2) 課題

水道が守られていることについて水道管の復旧を取り上げ学習したが、復旧までの時間からは復旧に関わる人々の努力や工夫を考えさせることが難しかった。復旧の様子の写真や人々の動きが分かる資料の方が努力や工夫に目を向けやすく、ゲストティーチャーのお話も更に効果的なものになったのかもしれない。

1時間の評価規準や単元中の位置づけを設定して取り組んだが、何をどのように評価するのか更に検討を加えていく必要を感じた。一つの評価事例について複数の教師で検討するなど、幅広く検討を加えることで、よりの確な評価の仕方が明らかになるだろう。

D-1 成果と課題